

博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	同志社大学	申請大学長名	村田 晃嗣
申請類型	複合領域型（多文化共生社会）	プログラム責任者名	和田 元
整理番号	L03	プログラムコーディネーター名	内藤 正典
プログラム名	グローバル・リソース・マネジメント		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

人間生存の基盤たる「資源・エネルギー工学、インフラ科学」と「地球規模の課題群に関わる人文・社会科学」を融合した新たな学際領域「グローバル・リソース・マネジメント」を設定し、現在の困難を解決し、将来に生じうる隘路を事前に察知して対策を講じうる能力を有する、新興国、及び最困難国で活躍するグローバル・リーダーの養成を目指す。同志社大学は、博士課程教育リーディングプログラムを推進することで、現在、世界が直面する多様な課題に対して、知識偏重的な学習・研究から脱したうえで、広い視野から主体的に問題を発見し、その解決に向けて創造的な思考をもって行動できる高度専門職業人材の養成を図る。

そのため、既存研究科の主流となっている学問系統別の教育研究方法ではなく、issue-focused（課題追究型）かつsolution-oriented（解決志向型）な教育研究方法を大胆に取り入れる。本プログラムは、その先駆として位置づけられるものであり、複数の研究科の協力・連携による領域横断的・応用的教育プログラムを設置し、知のイノベーションによって大学院修了者のキャリアパスの拡大を図る。

2. プログラムの進捗状況

本学大学院の博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」（以下、「GRM」）は、Preliminary Examination合格者7名、Qualifying Examination合格者5名、合計12名のプログラム履修生に加え、17名の履修候補生で実質的なスタートとなる平成25年度を迎えた。GRMの教育課程のコアを成すGRM共通科目（国際会議の組織と実践、オンサイト実習、フィールドワーク、インターンシップ、コモン演習）については、事前のフィージビリティ調査ふまえて各地域、機関へ順次学生を送り出した。平成25年度は、関連事業を（1）学修環境の整備、（2）コースワーク運営・支援体制の拡充と機能強化、（3）コースワークの実施と機能強化、（4）優秀な学生の確保と説明責任（情報公開）、（5）経済的支援の5項目に大別し、プログラムの着実な実施と充実化を図った。これらの活動により、平成25年度末に実施したPEでは8名、QEでは8名を選抜し、GRMは合計21名のプログラム履修生で平成26年度を迎えることになる。

(1) 学修環境の整備

「GRMコモンルーム」にテレビ会議システムを配備し、異なる校地で学ぶ文理の学生が日常的に文理融合の共通課題に取り組む環境を整備した。また「GRMコモンルーム」はGRMの専門科目を実施する教室としても活用した。

(2) コースワーク運営・支援体制の拡充と機能強化

①プログラム・オフィサー（有期教員職、1名）を雇用し、文理融合科目「GRMオンサイト実習」や「GRMコモン演習」の企画・運営、英文学術雑誌「Journal for Information, Study and Discussion of Global Resource Management」の編集・発行の中心的役割を担った。②キャリアコーディネーター（有期教員職、2名）を雇用し、学生の進路把握を目的とする面談の実施、「GRMキャリア形成支援セミナー」の企画・実施、企業訪問による広報活動と学生の「出口」開拓に取り組んだ。③プログラム支援員（有期職員、4名）とアルバイト職員（2名）を雇用し、GRMの正課授業や正課外の特別講義における学生、教員の派遣・招聘、予算執行管理等の事務処理を円滑に進めた。④TA制度によるレジデント・メンター（6名）を雇用し、履修生の研究上の課題、留学生の生活面での課題に対応する体制を整備した。レジデント・メンターは、GRMの学外実習の調整、文理共修の授業科目における補助業務に従事し、円滑な授業運営に寄与した。⑤フィリピン、エジプト、英国、民間企業出身者を客員教員（4名）、工業高等専門学校専任教員を嘱託講師として雇用し、学生のニーズと教員のダイバーシティを配慮した体制で学生の教育を実施した。⑥教務事務システムを改修することにより、効率的かつ正確にGRMにかかる教務事務を処理した。

(3) コースワークの実施と機能強化

①GRMの実施、運営にかかるプログラム選抜要項、プログラム履修要項・シラバス、奨励金給付要項を作成した。②フィールドワークを正課授業として実施し、15名の学生が国内外の実習地に赴いた。③国際会議の運営支援から企画・運営までのプロセスを学ぶ正課授業「GRM国際会議の組織と実践」を実施し、GRMを主催とする国際会議と国際学会の中に学生セッション会議を開催した。④文理の学生が共修する「GRMオンサイト実習」を北海道・利尻島及びトルコ・イスタンブール／ガジアンテップで実施し、多文化共生社会形成に必要なインフラ科学と人文・社会科学との融合実践知を学ぶ教育を実施した。⑤インターンシップを正課授業として実施し、7名の学生が国内外機関の実習地に赴いた。⑥文理の学生が共修する「GRMコモン演習」を実施し、文理融合の共通課題を基に発想の転換と統合を鍛錬した。⑦GRMサブ・メジャー科目として、文系学生向けの理工系科目「GRM Introductory Science and Engineering」、「GRM Introductory Infrastructure Engineering」、「GRMインフラストラクチャー基礎実験」、「GRM Water Resource Management」等、理系学生向けの人社系科目「GRMグローバル・スタディーズ基礎理論」、「GRMグローバル社会研究の理論と方法」、「GRM開発とガバナンス」、「GRM社会研究方法論」等を実施した。⑧世界的水準の専門家による「GRMグローバル・リーダーシップ・フォーラム」を4回開催し、学生をリーダーとして養成するための正課外の特別講義をスタートさせた。⑨専門領域や専門とする地域のダイバーシティを考慮した布陣で「GRMレクチャーシリーズ」を開催し、学生の学修ニーズに応えた。⑩産学官でグローバルに活躍する若手人材を講師とする「GRMキャリア形成支援セミナー」を開催し、学生にロールモデルを示す取組みを実施した。⑪ザンビア、インドネシア、ニューヨーク、ワシントン等でフィールドワーク調査を実施し、次年度の「GRM国際会議の組織と実践」、「GRMフィールドワーク」の実施準備を行った。⑫GRMの専門教材として、「Infra and Energy in the world」を完成させ、「Project Cycle Management」と「GRMプログラムのためのイスラーム地域研究入門」の作成に着手した。

(4) 優秀な学生の確保と説明責任（情報公開）

①産官学の各分野を対象に、ビジネス雑誌、電車広告（プログラム説明会（於：東京））等のメディアを活用した広報活動を実施した。②キャリアコーディネーター等による企業訪問により、GRMプログラムの社会的必要性とプログラムを学ぶ学生の社会的通用性を伝える活動を積極的に行い、博士学生の「出口」開拓に努めた。③学生自らホームページのコンテンツを更新できるシステムを導入し、GRMでの学生の活動実態を、即時性をもってより具体的に公表する取組みを開始した。④英文学術雑誌「Journal for Information, Study and Discussion of Global Resource Management」を刊行し、GRM履修生が身につけた専門性を社会に向け発信した。

(5) 経済的支援

GRM特別奨励金制度により、給付条件となるPE合格者より5名、QE合格者より6名の受給申請があり、PE合格者には月額15万円、QE合格者には月額20万円の奨励金を給付する経済的支援を行った。またフィールドワーク、インターンシップを実施した18名の学生に対して、渡航費、宿泊費を支援した。